学長定例会見資料４

健康食品の効果についての評価体系確立へ
神戸大学健康科学評価センター、６月に初シンポ

神戸大学医学部附属病院
健康科学評価センター長、平井みどり
℡　078-382-6640
メール：midorih@med.kobe-u.ac.jp
准教授、保多隆裕
メール:tyasuda@med.kobe-u.ac.jp

神戸大学医学部附属病院（神戸市中央区楠町）は昨年１月、健康科学評価センターを設立しました。健康食品や健康機器についての正しい情報を市民に提供するとともに、健康食品の効果についての評価体系を確立するのが狙いです。このようなセンターが大学病院に設けられるのは全国でも極めて珍しいことです。企業が健康食品の効果を検証する相談にもあずかり、企業との共同研究も２件進んでいます。６月８日（土）には初のシンポジウムを開催し、センターの活動の方向性を中心に企業や一般市民向けて紹介します。

シンポジウムの基調講演では伊藤壽紀・大阪大学大学院医学系研究科教授が「新たな医療の新展開　全人的統合医療」と題して鍼灸、ヨガ、アロマなどの補完・代替医療の実例を紹介。市橋正光・神戸大学名誉教授が「アンチエイジング医学」と題して、紫外線と肌の老化について解説します。

この後は「健康科学」をメーンにした講演オンパレード。久野高義・神戸大学医学研究科教授が「消費者にとっての健康科学とは」の題で、骨粗しょう症の予防に対するカルシウム効果と問題点について話します。樽林陽一・医薬基盤研究所理事（神戸大学医学研究科教授）は「健康社会への展望」の題で、健康食品、健康機器の市場が今後どのように広がっていくかなどお話しします。坂本憲広・神戸大学医学研究科教授は「サプリメントとエビデンス」の題で、企業との共同研究テーマでもあるαリポ酸の効能や、ビタミンＣの抗がん作用について話します。保多隆裕・神戸大学附属病院准教授は「健康分野のレギュラトリーサイエンス」の題で、健康食品を評価していく中でどのようにして有効性と危険性のバランスをとって実用化にこぎ付けていくか、そのために評価・規制はどうあるべきかについて話します。最後に平井みどり・健康科学評価センター長（神戸大学医学研究科教授）が「健康科学評価センター設立にあたって」と題して講演。来年４月に附属病院近くにオープンする神戸大学地域医療活性化センターの建物の中に健康科学評価センターの事務所を設け、健康科学についての市民への情報提供や企業へのコンサルテーションの中核になることなどを説明します。

神戸大学附属病院薬剤部長でもある平井教授らは 11 年秋にオランダを視察した際に酪農製品を健康増進食品と位置づけて、健康食品評価を国を挙げてサポートしている実情を見

て評価センター設立を提案。小児科学、抗加齢医学、創薬など幅広いメンバーを集めてスタートしました。

平井教授は「健康食品について消費者の皆さんが興味あるのは『これは効く』。企業は効果があるというお墨付きをほしがります。センターでは、消費者の皆さんにどの健康食品がいいというのではなく、健康食品への考え方、判断の仕方を普及させたいと思っています。あまり注意の払われていない健康食品と薬との相互作用なども今後説明していきたい。また、企業の方には、本当にエビデンスのあるものが消費者に届けられるように、一緒に取り組んでいきたい。」と話しています。

シンポジウムは6月8日午後1時半から4時45分まで、神戸市中央区楠町7の神戸大学医学部附属病院シスメックスホールで。参加無料。希望者はメール（hero@med.kobe-u.ac.jp）かファックス（078-382-5919）で「参加希望」と伝えると申込書が返送されます。現在も受付中です。また、センターホームページ（http://www.hosp.kobe-u.ac.jp/hero/index.html）もご確認ください。